

ささやきボイスシリーズ 3

シチュエーション：あたしがお兄ちゃんのお嫁さん！（日常）

キャラ設定

藤堂ゆか（16）

高校二年。

◎外見

身長：153 センチ

体重：上記身長でやや痩せているに近い標準の体重。

バスト：C カップ

少し茶が掛かったボブでやや天然パーマーが掛かったようなウェーブがある。

活発な性格で、まるでひまわりをイメージさせる爽やかな笑顔で兄を癒す。

◎家族構成

父、母、兄（25）、ゆか

父親は IT 業界では名の知れた経営者。

TOUDOU ソフトと聞けば「ああ」と言われるほど。

母親も同じく IT 業界出身者で二人で会社を立ち上げた。

兄とゆかは血がつながっていない。

これは兄は父親の親友の子供で不幸にも、あおり運転の被害に遭い兄が 7 歳の頃に藤堂家に引き取られ養子となっている。ゆかは藤堂家の実子。

兄は現在、藤堂家とは関係ない IT 企業で社会勉強中。ゆくゆくは TOUDOU ソフトの社長になることを運命づけられているが、本人は引き取って貰った恩義を感じむしろ恩返しにと頑張っている。

ソフトウェア技術者としての腕も悪くなく、今のところ順風満帆というところだ。

◎特技・エピソード

父親と母親が IT 業界出身にも関わらず IT 系にはそこまで強くない。

ただ国語の成績は優秀なので、遅咲きの可能性もある。

記憶力は良い方で神経衰弱では負けなし。

また百人一首も得意で俳句は全部頭の中に入っている。本人はあまり意識していないが上の句の最初の音から瞬時に該当の俳句を絞り込み、すでに記憶している目の前の取り札の候補も同時に絞り込まれる。そのため取り札の位置が悪くなければほぼ 100% の確率で取り札を取れるほどの実力の持ち主である。

このことから父親には司法の道に進むのが良いかもしれないと言われている。

兄に対しては物心ついたころから仕事で忙しい両親に代わりずっと面倒を見てもらったせ

いか、極度のブラコンになってしまった。

12 歳の頃、家の大掃除で何かで取り寄せたのか、戸籍を見てしまい兄が実の兄でないことを知るとブラコンの度はますます強くなった。

社会人になって一人暮らしを始めた兄をまるで恋人のごとく通い詰めて、兄の身の回りの世話をするようになる。

兄にはそんなことしなくていいと言われるたびに、これくらいしか恩返しが出来ないんだよ？ということで兄を説得している。

◎将来の夢

お兄ちゃんのお嫁さん。

弁護士（弁護士になって藤堂家専属弁護士になることを目標にしはじめた。特に兄の助けになればとの思いがかなり強い。

◎性格・人物

性格は明るく陽気でやや天然気味。

悩みがあっても持ち前の明るさで何とかなると悩みに正面突破の超ポジティブ派。

それが功を成しているのか、兄が実の兄でないから結婚できる！と考えているほど。

兄をこよなく愛し、兄のためならなんでも出来るといい言い張るレベル。

学校の成績は国語、社会、化学など記憶するものは毎回ほぼ 100 点を取れる程。数学、科学はやや苦手。苦手とはいえ上から数えた方が早いくらい。言うなら上の中のグループ。

前述の記憶力からカルタ部に所属しエースである。

昨年、全国高等学校百人一首選手権の個人の部で優勝。団体でも 3 位と健闘した。

容姿も上から数えた方が早く、男子からも人気で何人もの人から告白を受けるがそのたびに極度のブラコンぶりをアピールして相手を引かせている。それでもめげない相手には百人一首で勝ったら付き合ってもいいと勝負するが全国大会優勝者を相手にハンデを貰っても勝てるわけもなく悉く撃破するのが定番だ。

◎主人公への思い

もはやここで語る必要が無いほどのお兄ちゃんラブである。

父親代わりでもあり、真面目で誠実、容姿も良いので惹かれるのに時間は掛からなかった。

また兄も自分の事に対して全力でぶつかってくる妹に対し、邪険に出来ない程には思いを理解している。そのためか 25 という若さで彼女はおらず、また告白されても断るというある意味で妹と同じ道を歩んでいる。

実は両親もゆかの思いに気が付いており、血がつながっていないことから法律上問題もないため将来二人を結婚させても良いのではと考えている。

※主人公は自分の理想な兄をご想像していただければと思います。

ープロットー

<チャプター1:お兄ちゃんと夕食>

お兄ちゃんの実質お嫁んさんを名乗り、また兄の世話係を自称するゆかは今日も兄のアパートで兄の帰りを夕食を作って待っていた。

<チャプター2：お兄ちゃんと添い寝>

就寝時間、ゆかは兄の布団に入り込む。

ゆかがすでに兄に対する思いが本物だと知って少し焦るがゆかが兄を諭して、少しだけ異性として見てと、ささやきと耳への息吹きかけをする。

ー台本ー

<チャプター1:お兄ちゃんと夕食>

※特に指示がない場所についてはお任せします。

※主人公帰宅。ゆか出迎え

※声方向：正面（距離感は玄関で出迎える感覚の距離）

「お兄ちゃん、お帰りなさい！」

「え？ 今日に来る日だったかって？ ううん、今日はあたしがお兄ちゃんに会いたくて来ちゃった」

※↑最後の来ちゃったはいたずらっ子のように

「今日は少し早かった見たいけど…？ ちょうど仕事の切りが良かったんだ？ お仕事は順調？ そうなんだ！さすがお兄ちゃん！」

※↑声方向：正面から右側に移動しながら（少し近め）

※↓声方向：右側のまま

「あたし？ あたしも順調だよ！ この前の全国模試で T 大学法学部は A 判定だし、県のカルタ大会も個人も団体も優勝！全国二連覇も現実味が帯びてきたよ！」

「ありがとう！でも、お兄ちゃんの妹だからこれくらいは当然かな！」

※最後は誇らしげに

「あ、カバン持ってあげるね」

「ご飯の用意も出来てるけど、どうする？ ご飯にする？ お風呂先にする？ それとも、あ・た・し？」

※↑声方向：右側そのまま「それとも、あ・た・し？」の所を耳元で囁く感じに。

※↓声方向：正面移動。距離も少し離れる。

「いたっ！痛い、痛い！ じょ、冗談だってば！ もう～、何もチョップすることないでしょ～」

「え！？ 冗談に聞こえなかった？ そ、そう？ あれ～、おかしいな～」

※↑少し焦った風に

※↓声方向正面から今度は左に移動する。以降左のまま（少し近め）

「あ、で、どうするの？」

「ご飯、先にするんだね？ うん、分かった！」

「ん？ 今日は何を作ったのかって？ ふふーん！お母さん直伝の肉じゃがだよ！あとアジの干物に味噌汁！ お兄ちゃん、お母さんの肉じゃが好きだもんねっ」

「うん、じゃあ着替えて来てね！」

※場面変更。食後リビング

※声方向：正面。距離感はテーブルで向かい合っている感覚で。

「どうだった？ おいしかった？ えへへ！良かった！あたしの記憶力にかかればお母さんの味も完全再現だよ！」

「これなら、いつでもお兄ちゃんのお嫁さんになれるね！」

「え？ 兄妹なんだからそんな事を言うなって？もう、お兄ちゃん固いな～」

※↓ここから少し真面目な雰囲気

「兄妹じゃ結婚は出来ない？ うん、そうだよ。それが血の繋がった兄妹なら、ね？」

「ねえ、お兄ちゃん？ あたしが知らないとも思ってたの？ あたしとお兄ちゃんには血の繋がりがなんてないんだよ？」

「お兄ちゃんだって、知ってるでしょ？ ううん。知らないわけないよね？ だってあたしとお兄ちゃんって八歳差なんだよ？ お兄ちゃんが養子になったのが七歳の時……」

「なんで、知っているのかって？ お兄ちゃんが一人暮らしするときに戸籍謄本取り寄せたでしょ？ 引っ越しの手伝いをしてる時にたまたま見ちゃったんだ……。それに遅かれ早かれ知る事にはなってただろうし……」

「だから、お兄ちゃんとあたしは結婚出来る事をあたしは知ってるんだよ？ このこと、どういう意味かわかるよね？」

※真剣なのはここまで

「ちょ、ちょっと、そんなに慌てないで、お兄ちゃん。あたしはちゃんと理解した上で話しているし、まだお兄ちゃんがあたしに女として見てないことも知ってるもん」

「だからお兄ちゃんがちゃんと受け止めれるまで、あたしは待ってるから」

※↑「待ってるから」は優しく諭すように

「うん。大丈夫だよ。さ、お兄ちゃんはお風呂に入っちゃって。その間にあたしは洗い物しちゃうから！」

<チャプター2：お兄ちゃんと添い寝>

※初めから、最後までオールささやきでお願いします。

※声方向：右側

「お兄ちゃん、起きてる？」

「ううん、寝られないわけじゃないんだけどね……。ちょっとわがままいいかな？」

「うん、お兄ちゃんと一緒に寝たいなって。ダメかな？」

※↑ダメかな？は少し切な。

「え！？ いいの！ ありがとう、お兄ちゃん！」

※↑最初は驚きで、後半のありがとうは嬉しそうに

「それじゃ、お隣お邪魔しま〜す」

※↑ここは無邪気な感じで

「ねえ、お兄ちゃん。友達から聞いたんだけど、男の人ってこういうの好きなんだよね？」

※ここで右耳に軽く行き吹きかけ

「どう？ 気持ちいい、かな？ そう良かったあ。あ、じゃあ、続けてもいいかな？」

「うん。じゃあ、続けるね？」

※ここから耳吹きかけを約 1 分半程。吹きかけパターンが 3 つくらいあると助かります。

パターンの順番組み合わせはお任せします。

「どう？ 良かったかな？ ホント？ 良かったあー 友達が男の人にやってあげると喜ぶって聞いたからお兄ちゃんにやってあげたかったんだ。ねえ、反対側やる？」

「ふふふ、うん。じゃあ、反対側もやってあげる」

「お兄ちゃん、上からごめんね〜 うんしょっと」

※↑右側からお兄ちゃんの上を通る感じで左側に。

「左側に到着う〜」

「お兄ちゃん、覚悟お〜」

※先ほどと同じく耳吹きかけを約 1 分半程。吹きかけパターンが 3 つくらいあると助かります。

「ふふふ、お兄ちゃん、ホントに気持ちよさそうだね。そんなにいいんだ？」

「へえ〜、今度お兄ちゃんにやって貰おうかな？ いいの？ やったあ！」

「ねえ、お兄ちゃん。一つどうしても気になってたことがあったんだけどいい？」

※↓少し真剣な雰囲気、もしかして〜は切なく。

「うん。えっとね、お兄ちゃんって妹のあたしから見てもカッコいいし、優しいと思うんだ。

それでね、どうして今まで彼女がいなかったのかな？ って。もしかして……、あたしのせいだったのかなって思った時もあるって……」

※↓アンダーラインのところは少し潤んだ声で。

「そんなことない？ むしろ、ゆかにここまで本気で好きになって貰えて嬉しい？ ホント？ お兄ちゃん、それはホントにそう思ってくれてるの？」

「お兄ちゃん……。ありがとう……。ホントにありがとう……。あたし、今、とても幸せな気分だよ」

※↑二重のアンダーラインは潤みながら嬉しそうに

※↓静かにでも優しくも確かな感じで

「お兄ちゃん、好き。ねえ、お兄ちゃん。あたしのお兄ちゃんできてくれて、ありがとう」

「好き、大好き！お兄ちゃん、大好きだよ！」

※ここから好きという言葉が好き。大好き。お兄ちゃん、大好き。をいろんなバリエーションで左 45 秒ほど 10 秒程かけて左から右へ移動して右も 45 秒程ずっと好きの気持ちを耳に息がかかるような感じでささやいて伝え続けてください。

「はあ～、たくさん、お兄ちゃんに好きな気持ち伝えちゃった。えへへ」

「え？ 明日、お父さんたちのところに？ ええ！？ あ、あたしたちが将来結婚することを伝えるに？」

「気持ちが揺るがないうちに、しっかりお父さん達にもしっかり伝えたい？ お兄ちゃん……、あたし、嬉しいよ……」

「お兄ちゃん、あたしがお兄ちゃんのお嫁さんだよ？」

※↑最後、嬉しそうに。距離感は耳に密着した感じで。

<おまけ用：無限吹きかけ>

※声方向：正面。

「なに、お兄ちゃん？ え？ また耳に吹きかけるのをやってほしいの？ ふふふ、あたしでいいならいいよっ」

※密着したささやきで。方向は右。吹きかけは本編のを使います。

「お兄ちゃん、準備オッケーかな？ うん、じゃあ行くよ～」

※ささやきで左右一つずつお願いします。

「反対側やってあげるね？」

「今度はこっち、ね？」

「右をやってほしいの？ うん、いいよ♪」

「左をやってほしいの？ うん、いいよ♪」

※最後正面

「はい、お・わ・り。もう、寝よ？」